

ポスター | 1-07 カテーテル治療

ポスター

カテーテル治療⑤

座長:佐川 浩一 (福岡市立こども病院)

Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:38 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-031~III-P-038

所属正式名称: 佐川浩一(福岡市立こども病院 循環器科)

[III-P-032]成人先天性心疾患に対するカテーテル治療、症例数・疾患・治療内容とその変化

○小林 俊樹¹, 葭葉 茂樹¹, 小島 拓朗¹, 清水 寛之¹, 熊本 崇¹, 安原 潤¹, 住友 直方¹, 枘岡 歩², 宇野 吉雅², 鈴木 孝明²
(1.埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科, 2.埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓外科)

Keywords: adult, IVR, CHD

【目的】2007年4月に開院となった当院の先天性心疾患(CHD)に対するカテーテル治療(IVR)の中で成人症例の比率及び、その治療内容について検討を行ったので報告する【対象及び方法】20歳以上の症例を成人症例とし、症例数や疾患内容の推移やその治療内容について検討を行った。【結果】2007年4月から2014年12月末までの総IVR数は約840例であった。内成人症例は113例であった。疾患別では ASD 94例、PDA 10例、肺動静脈瘻(PAVF)単独 2例、単心室(SV)系に合併した PAVF 2例、Fontan術後の VV shunt 1例、SV Stent(SVCとLPA) 1例、冠動静脈瘻に対する coil閉鎖 1例、喀血合併のSVに帯する APCA coilが1例であった。PDAの2例では大動脈弁疾患を合併しており、将来的に人工心肺を用いた手術が必要であるため、PDAによる人工心肺下の循環不全を予防する目的の依頼であった。【考案】初期の4年間は ASDと PDAの症例のみであった。ASDは当初年間20例を超える成人症例数であったが、成人施設でも ASDによる ASD閉鎖が可能となった以降は年間10例弱となっている。しかしそれとは反比例して、徐々に当院にて特殊な IVRが試行可能な事が知られだし、院内だけでなく他院より PAVFなどの疾患が当科へ直接紹介されてくるようになってきている。また Fontan症例の遠隔期合併症への IVRも徐々に増加してきている。成人症例の増加だけではなく、マクロコイルの発達や Amplatzer vascular plug(AVP)の登場により、より難しい治療でも可能になってきている事も原因と考えられた。【結語】治療機器の進歩により、IVRにより QOL向上が期待できる成人先天性心疾患症例が以前より増加している。機器の特性をよく理解し、積極的な治療を行うべきと考えられた。